

経営比較分析表（平成30年度決算）

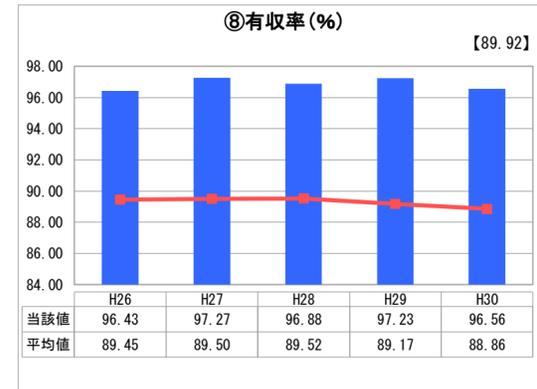
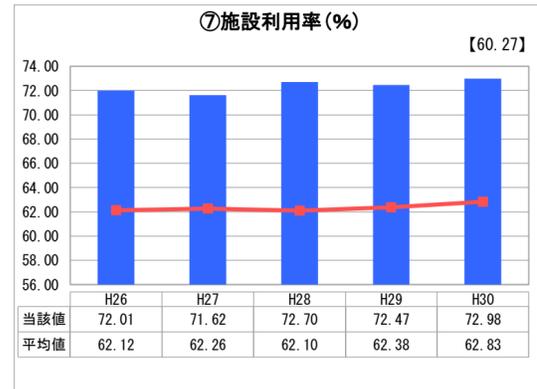
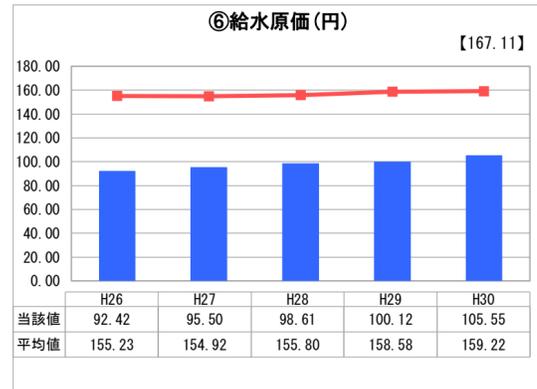
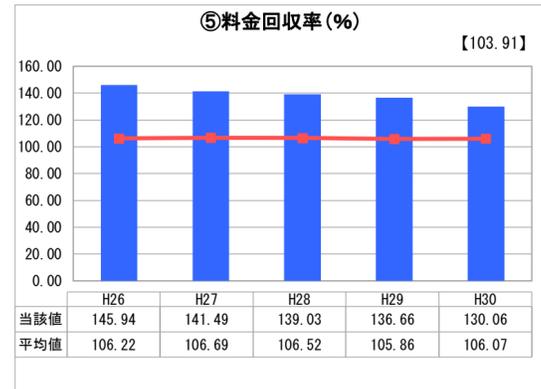
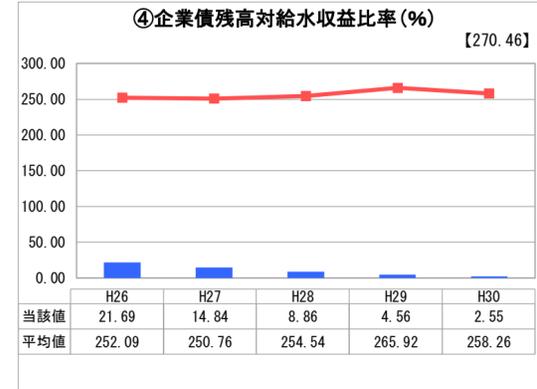
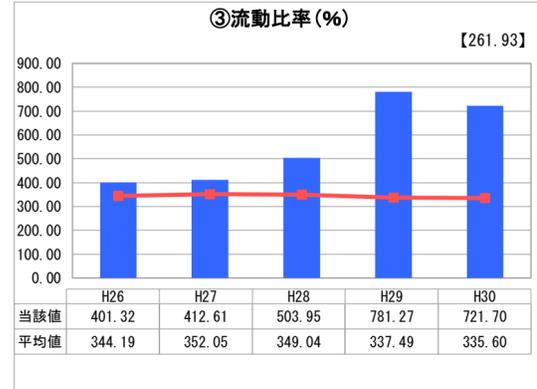
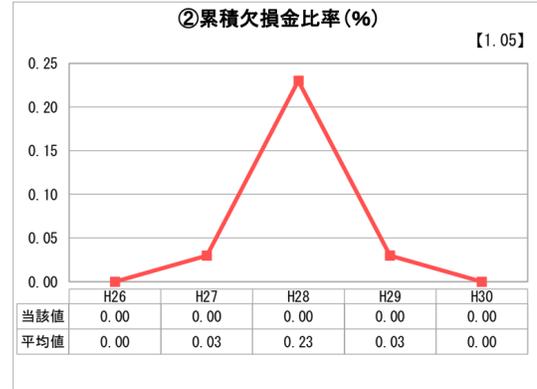
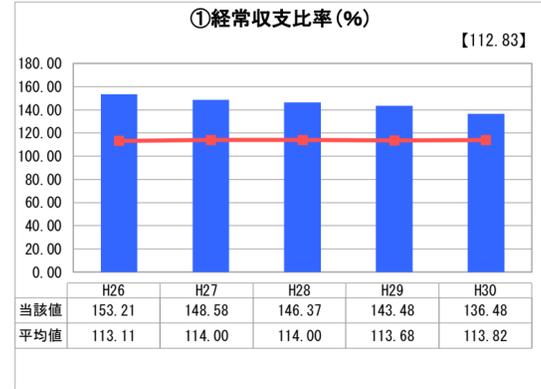
東京都 昭島市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	96.00	100.00	1,036	

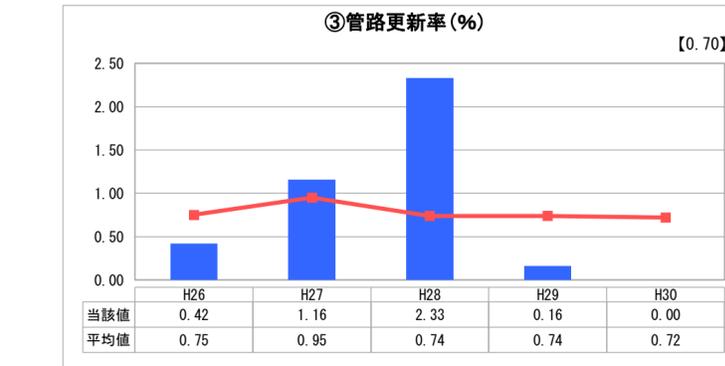
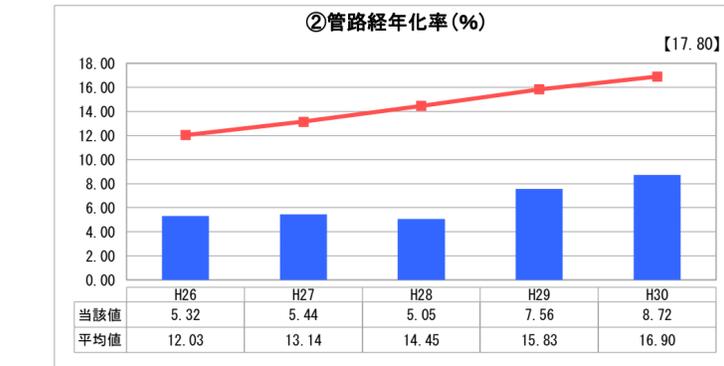
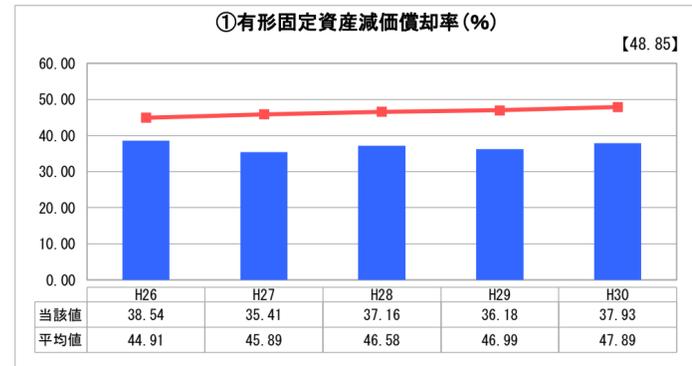
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
113,215	17.34	6,529.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
113,359	17.34	6,537.43

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収支のバランスを示す①経常収支比率は、毎年度100%を超えており、持続して経常利益を計上しています。平成22年度から平成29年度までに、2配水場の更新、1配水場の整備を実施し、多額の建設改良費を支出している中において、④企業債残高対給水収益比率からも分かるとおり企業債に依存することなく事業を進めています。また、短期的な債務に対する支払い能力を示す③流動比率も平成29年度に引き続き平成30年度においても700%を超え、支払い能力を維持していることを示しています。

水道料金は、⑤料金回収率が示すとおり適切な水準にあり、全国的にも低額な料金を維持したまま、事業費を賄い、余剰金を積み立てて計画的に施設更新に取り組むことができています。

費用の効率性を示す⑥給水原価も低く、施設の規模を示す⑦施設利用率も概ね適切で、⑧有収率も高水準にあり、取水した水を無駄なく収益に結びつけていることを示しています。

以上のことから、現状は経営の健全性を維持することができており、効率的な運営ができていますといえます。

2. 老朽化の状況について

施設全体の老朽化の度合いを示す①有形固定資産減価償却率は、平成25年度以降横ばいの状況にあり、施設の更新が進んでいることを表しています。これは、前述のとおり配水場の更新事業に取り組んできたためです。

管路は、平成29年度、平成30年度と若干の上昇傾向にありますが、他の類似団体より②管路経年率は低く、漏水等による水の無駄も少ない状況にあります。

優先して取り組んできた配水場の更新事業は終了し、残る中央配水場の耐震補強事業の終了後は、管路の更新事業を本格化させ、更新ペースを加速させることが課題となります。

全体総括

本市水道事業は、清浄な地下水源に恵まれるという好条件もあり、低コストでの給水を実現するとともに、経営の健全性を維持しています。

今後は、人口減少等、水需要の低下による収益減が見込まれる中、管路網の強靱化を図るなど適切に施設更新に取り組む必要があります。

これらのことを踏まえ、平成30年3月に策定した「第二次昭島市水道事業基本計画」の各施策を計画的に取り組み、深層地下水100%のおいしい水をいつまでも安定して供給し続けるため、水道施設を常に良好な状態で、災害にも強い施設を維持できるよう、更なる経営効率化を図り、財源確保に努め、安定的、持続的な水道事業の経営に努めます。